



# 黒岩探訪

たんぼう

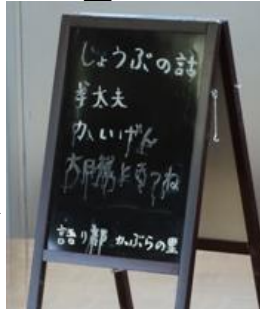
32

KUROIWA  
くろいわ

## 民話・語り部かぶらの里

6月20日に「語り部かぶらの里」の方々に地域の民話を語っていただき、水曜日の業前は通常読み聞かせの時間ですが、年に一回民話の語りを聞く機会を設けています。

今回話していたのは、「菖蒲（しょうぶ）の話」「羊太夫（ひつじ）」「かいげん」「大日様のきつね」です。

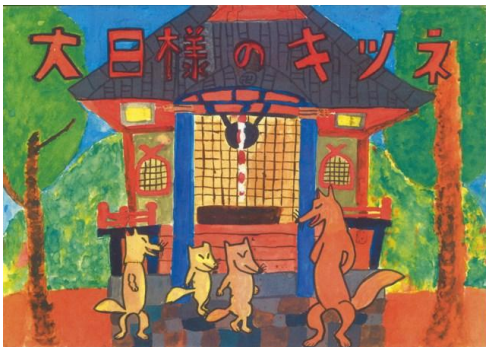


民話は、古くから口伝で伝承されてきたものです。語り人は何も見ないで、児童の様子を感じながら静かに話します。衣装も作務衣（さむえ）を着ています。普段の読み聞かせとはちよつと雰囲気が違うなか、「むかし、むかし」や「むかし」と語り出します。最後は「・・・」と「結ばれます」というのは、黒岩地区の民話に伝わる話です。

民話は、昔話のようであつたり伝説や笑ひ話のようであつたりといふ世界では、大蛇やかっけい機を救ふ、タヌキやキツネ、ネギが人をはたりか、をばか、し、な、ん、と、も、思、ひ、な、い、界、で、す。今、小、学、校、の、保、護、者、が、



谷をかくした天狗さま  
-昭和56年度3年生制作



大日様のキツネ  
-昭和61年度6年生制作



新田の山神様  
-昭和62年度6年生制作

小学生だつた頃に作られた紙芝居が八つ残つています。そのうち左の三つが民話に基づくものです。「谷をかくした天狗さま」は弘法大師様が寺を造ることに浮かれた村人に対して谷津を一つ隠してしまふ天狗の話です。黒岩カルタの「かくし谷津から街を見守るてんぐさま」の説明には「江戸時代、年貢をとりたてのため田畑の数を調べに来た役人の目から、村人たちのために田畑を隠してあげたという民話も残っている。」とあります。「大日様のキツネ」は、キツネにばかされてしまう若者の話です。「新田の山神様」は新田地区から南に抜ける峠坂を舞台にしたオオカミの話です。今でも関連するお祭りを十一月に行っているようです。黒岩に伝わる民話として、後世に残しておきたい財産です。